

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 八児 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学)

教科に関する調査(国語、数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

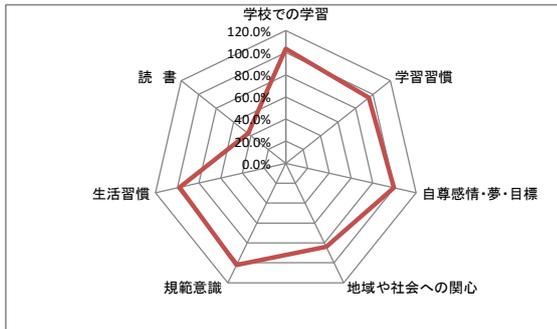
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学)の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	漢字は読めているが、語句の意味を理解したり語句を正しく選択したりすることを苦手とする傾向があり、全体的に語彙力が不足しているといえる。また、ケアレスミスと思われる誤答が多い。ただし、記述を苦手としているわけではない。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文脈に即して漢字を正しく読む問題や、質問の意図をとらえる問題、話合いの話題や方向をとらえる問題。	
	努力が必要な問題	語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く問題や、相手や場に応じて敬語を適切に使う問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	関数や資料活用の問題は正答率が高かったが、図形の問題は苦手とする傾向が見られた。また、ケアレスミスと思われる誤答も多く見られた。記述式の問題は、全国と同じように正答率があまり高くないが、全国平均を上回る正答率が複数ある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題や考察の対象を明確にとらえる問題、整式の加法と減法の問題。	
	努力が必要な問題	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題や、図形の性質を見出し、それを数学的に表現する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校での学習」に関する項目では、これまでの学習の仕方を肯定的にとらえた回答が多い。また、「自尊感情・夢・目標」や「規範意識」に関する項目の肯定的な回答の数値も高く、これらのことが落ち着いた学校生活につながっていると思われる。 ・本や新聞などの活字にふれる生徒の割合、読む時間ともかなり少なく、長時間ゲームをする生徒の割合が多いことが、学力調査の結果に影響している可能性がある。 ・朝食を毎朝食べると回答した生徒の割合が以前に比べ減っており、授業に対する集中力への影響が懸念される。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・国語科に限らず、全教科で教科書の記述の意味をきちんと把握させるなどの指導、確認を行っていく。
- ・本年度、本校が取り組んでいるNIEとも関連させて、新聞を活用した語彙力や読み取る力の向上を図る。
- ・正答率の低かった領域の内容へは、基本的な問題に繰り返し取り組ませることで、苦手意識を払拭させていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学校からの各種通信や保護者懇談会等様々な機会を通じて、生活リズムの安定と読書や家庭学習の習慣化など、一つ一つの積み重ねが心身の成長や学力の向上にとって大切であることを発信し続けていく。
- ・ゲームやスマホなどの上手な利用の仕方と、各家庭でのルール化を引き続き啓発していく。